

会長挨拶

新年度がスタートしてはや2カ月がすぎました。草木の勢いも日に日に強く感じられる季節となっています。新型コロナウイルス感染症への対応は、5月に愛媛県に「まん延防止等重点措置」が適用されるなど、予断を許さない毎日が続いており、教頭先生方におかれましては、気の抜けない日々を送られていることと拝察いたします。今年度は、4月から児童生徒の登校が始まりましたが、学校生活は今なお制約が多く、各校で様々な工夫をしながら感染対策を施し、少しずつ軌道に乗り始めてきたころだと存じます。

そのような中、昨年同様に、5月に実施を予定していた理事会、定期総会の会合を中止し、いずれも書面による審議、表決とさせていただきます。このような経緯の中、今年度会長を務めさせていただくことになりました。会員385名の皆様の御協力、教育行政、関係諸団体の方からの御指導を賜りながら、職責を果たせるよう務めて参ります。どうぞよろしく願いいたします。

さて、コロナ禍の中、教頭会の活動につきましても、「例年通り」というわけにはいきません。

8月に開催予定の全国公立学校教頭会全国大会（佐賀大会）は参集型とせず、オンラインによる大会となりました。本県といたしましても、今年度は、研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり～夢と志を持ち 絆を深めながら可能性に挑戦する子供の育成～」として、第39回四国地区小中学校教頭会研究大会（愛媛大会）兼第60回愛媛県小中学校教頭会研究大会（松山大会）が実施されます。児童生徒の安全安心を第一に考えるとともに、四国の教頭先生方の研究の火を消さないためにも、大会自体の在り方を話し合い、次のような方法で実施することを計画しています。

まず、従来のような参集型の研究大会は行わず、四国四県の提言者の発表をまとめた「研修集録」を作成し、「紙面発表大会」とする。また、オンラインで開閉会行事と有識者の記念講演を行い、四国の先生方に視聴していただく形式をとる。このように、昨年度の四国大会が紙面発表のみであったところを、初めての試みとして、オンライン

を加えたハイブリット型としました。様々な御意見があるとは思いますが、昨今の社会状況を考慮し、新しい会の形を実践していこうと考えております。少しでも四国の教頭先生方の学びの場になれるように努力していきますので、何卒御協力のほどよろしく願いいたします。

ところで、孔子の『論語』の中に「朋遠方より来たる有り、亦楽しからずや。」という一説があります。これは、「同じ志を持つものが遠くから集まり一緒に学ぶ、なんと楽しいことではないか。」という意味です。学校現場はコロナ禍によって、様変わりしました。研究会等も中止が相次ぎ、先生方が膝を突き合わせて話し合う機会が減りつつあります。しかし、我々教頭は、現在行われている教育改革に取り組み、学校の進むべき道を見定め、校長の意を受け、日々学校運営に全力に当たらなければなりません。それとともに実践・研究の充実を図り、教育者としての教養と専門性を磨き、管理職として自らの職能の向上を図るべく協力体制を作っていかなければなりません。加えて、毎日刻々と変わっていく、新型コロナウイルスの状況を見定めながら、安心安全を最優先した学校経営がなされるよう組織のマネジメントにも取り組まなければならないのです。

このような時だからこそ、同じ教頭職として、お互いの考えや悩みを共有、相談しながら、目の前の児童生徒の健全育成のため、最善の対応をしていく必要があります。形は変わっても情報交換の必要性は不易なものです。だからこそ、愛媛県小中学校教頭会としましては、先生方の「つながり」を大切に、研究を推進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、毎日難問山積の多事多難なときではありますが、教頭先生自身が元気でなければ明るい学校は作れないと考えております。くれぐれも健康に御留意の上、御活躍されることを祈念して挨拶の言葉に代えさせていただきたいと存じます。この1年、どうぞよろしく願いいたします。

令和3年6月7日

愛媛県小中学校教頭会会長

片山 信二